

令和8年度 滋賀県コミュニティ・スクール推進事業研修会
(みつめなおして、よりよく①) 開催報告

1 趣旨

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効な取組に係る講演や事例発表を通して、県立学校等における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。また、県立学校における地域学校協働活動や CS と地域学校協働活動の一体的推進について学ぶ機会とする。

2 主催

滋賀県教育委員会

3 対象

- ・市町立校園および県立学校教職員
- ・学校運営協議会関係者、地域学校協働活動推進員、学校評議員 等
- ・「学校を核とした地域力強化プラン」事業担当者
- ・県および市町の社会教育委員 等
- ・社会教育士
- ・「地域連携担当者」等新任研修受講者（選択研修）
- ・行政関係者

4 日時

令和8年6月5日（金） 13:20 ～ 16:40

5 会場

滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1番1号）

※来場参加またはオンライン参加

6 内容

○開会行事

○事例紹介およびパネルディスカッション

- ・「県立学校地域協働モデル事業」の取組について

・登壇者：

愛知高等学校・愛知高等養護学校 綿谷 駒太郎コーディネーター

長浜北高等学校 中井 健太コーディネーター

日野高等学校 松村 亜有子コーディネーター

○講演

- ・演題：「コミュニティ・スクールの有効的な取組について」

・講師： 貝ノ瀬 滋 氏（文部科学省 CS 推進名誉マイスター、
全国コミュニティ・スクール連絡協議会前会長）

○情報交換（同時に CS アドバイザー相談会を実施）

- ・テーマ：「地域とともにある学校づくり」

7 参加者数

113 名（来場 64 名、オンライン 49 名）

8 研修会の概要

事例紹介およびパネルディスカッションでは、「県立学校地域協働モデル事業」について、各学校の取組や今後のビジョン、地域学校協働活動推進員の役割・重要性について、県立学校のコーディネーター3人にお話をいただいた。

【綿谷コーディネーター】3年という実践期間の中で、小さな試行錯誤を繰り返すことで、生徒たちが失敗を失敗と思わないような経験を提供しており、サイクルの回転を早めることで、生徒の成長を促していると述べられた。また、生徒が学校にとどまらず、地域の大人に認められたり、時には叱られたりする経験が、生徒のストレス耐性を育むことにつながるの考えを示された。コミュニティ・スクールの持続可能な体制構築に向けては、学校運営協議会において、担当教員や管理職だけでなく、地域にも役割を振ることで、活動の継続性を確保していくことを目指していると語られた。さらに、地域の「いつでもやるよ」という意欲的な声を具体的に整理し、提示した上で、まず「相談してみる、振ってみる」ことを重視している点を強調された。

【中井コーディネーター】連携する地元企業を選定する際の方針として、単に「いい企業、大きい企業」を選ぶのではなく、高校生を一人の人間として見てくれるか、採用自体が目的となっていないかという視点を重視していると述べられた。企業、教師、まちづくりセンターの方々のような委員が自ら体験機会を提供したり、知り合いを紹介したりすることで、たくさん受け入れ先リストができており、これが委員を越えた学校のネットワークとなると述べられた。コーディネーターの役割として、委員が「やらされている感」をもたないように、各自がメリットを感じながら活動できるような調整が重要であり、その調整の妙が連携を円滑に進める鍵であると述べられた。また、地域をとおして紹介された人材は、学校側も安心して受け入れられるというメリットがある点も述べられた。

【松村コーディネーター】学校運営協議会のメンバーを深く理解するためのコミュニケーションを重視し、個々の委員を知ることから始めるアプローチを紹介された。関係者との信頼構築が活動の第一歩であるの考えを示された。「やらされている感」では活動は楽しく続かないため、参加者一人ひとりが楽しんで取り組めることを優先して、それぞれの「ちょっとしたできる」を集積し、具体的な形にすることを目指していると語られた。

今回のパネルディスカッションを通じて、コミュニティ・スクールの推進する上で、各コーディネーターが実践の中で培われた独自のノウハウが示された。これらの知見は、今後のコミュニティ・スクール活動を一層充実させる上で、非常に示唆に富むものであった。

講演では、貝ノ瀬氏からコミュニティ・スクールの本質とその推進に向けた多角的な視点についてお話いただいた。ご自身の原点である北海道の炭鉱住宅での密接な助け合いの経験を紐解きながら、コミュニティ・スクール（CS）を単なる制度として捉えるのではなく、現代社会で希薄になった人間関係を再構築し、人と人との温かい「つながり」を再生するための仕組みであると強調された。

CSの運営の質を向上させるためには、企画・経営を担う「学校運営協議会」と、実働部隊である「地域学校協働活動」が密接に連携し、「一体化」して動くことが不可欠であると説明された。特に、地域と学校をつなぐコーディネーターなど、学校の内外を調整する役割の存在が重要であると述べられた。



また、CS は単なる教育改革に留まらず、市民一人ひとりが主体的に考え、対等な立場で話し合う場であるという考え方を示された。正解が一つではない時代において、多様な意見を出し合い、参加者全員が納得できる「納得解」を導き出すプロセス、すなわち「熟議」の重要性を強調された。

知識や技能といった「認知能力」に加え、自己肯定感や意欲といった「非認知能力」の育成には、地域社会での多様な体験が必要であるという見解を示された。学校を地域の誰もが利用できる「入会地（コモンズ）」と位置づけ、教育機能だけでなく、福祉、防災、生涯学習など、地域住民の生活を支える多機能な拠点として開放していく方向性（例として三鷹市の「学校3部制」など）を提示された。

情報交換では「地域とともにある学校づくり」をテーマに、各学校、学校運営協議会、地域学校協働活動などの取組を振り返り、交流を行った。また、CS アドバイザー相談会では、各市町の行政担当者がCS アドバイザーに対して、聞きたいこと、困っていること、今後の取組の指針など、ご自由にお話しいただいた。



9 参加者のアンケートより

○事例紹介およびパネルディスカッション

- 事例紹介等をとおして、子どもたちのために地域と学校をつなぐために尽力されている姿や思いに触れることができました。特に、小さな体験を積み重ねていくことの大切さを実感し、継続的な活動の重要性を改めて感じました。
- 県立学校の推進員の発表でしたが、本市における中学校の活動の参考になりました。推進員の個性ある取組に刺激を受けました。小中高の活動の力点が明確になりました。
- 地域コーディネーターの方がどのような配慮をしてくださっているのかもわかり、学校で行う仕事との分業がはっきりしていて良かったです。また学校の先生方の協力体制や、やる気のある先生方からの輪の広がり方も大変興味深かったです。
- 地域の企業・大学・行政などと連携し、生徒の興味や「やってみたい」という思いを、探究や進路選択につなげている点が印象に残りました。地域コーディネーターが学校と地域を結ぶことで、学校だけでは実現しにくい多様な学びが生まれ、子どもと地域の双方の成長につながると感じました。
- 学校運営協議会委員として、改めて自信を持って、積極的に活動する意識を持ちました。

○講演

- 地域社会の中の学校であり家庭である考え方や、学運協が形骸化しない考え方、熟議における納得解（合意）の考え方など、「そのとおり！」と言いたくなるほど腑に落ちました。子どもの時、居場所を大切にすることはふるさとを大切にするという考え方も良かったです。居場所づくりを学校でももっと考えていかなくてはいけないと再度考えさせられました。

- 学校運営協議会ができていくまでの歴史、変遷を知れたことは、大変良かったです。様々な変遷があって、だから「今」、だから「これから」という視点に立って考えられるきっかけになりました。
- 地域の入会地として、学校が教育・福祉・防災・生涯学習の場になるということが印象的でした。非常時の避難場所になるのですが、避難所運営という点でも地域の方の協力や、学校教育でも防災・避難をテーマにした取組を進められると良いと感じました。
- 認知能力の育成だけでなく、非認知能力を育成するためには、コミュニティ・スクール（学校と地域をとりまく課題解決の仕組み）が必要であるという話はすごく納得できました。どこの学校でもコミュニティ・スクールは必要だと思いました。
- 形骸化していないかという問いは、常に点検しながら取り組んでいかねばと感じました。
- 「正解はないかもしれないが、解答はある」という言葉から、話し合いを重ね、納得できる答えを見つけていくことの大切さを感じました。また、子どもたちの成長には学力だけでなく、協調性や主体性も重要であり、その力を育むためには地域との協働が必要であると考えました。今回の講演をとおして、学校・家庭・地域が連携しながら子どもたちを育てることの重要性を改めて実感し、自分自身も地域とのつながりを大切にしたいと思いました。

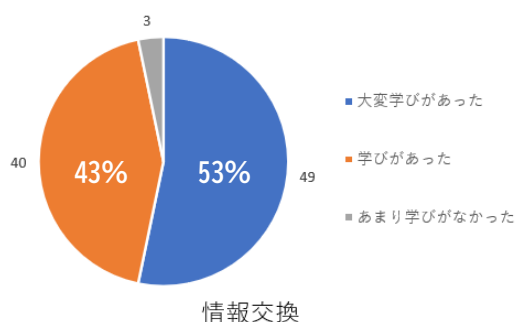
○情報交換

- 他校の具体的な取組や工夫について知ることができ、大変参考になりました。一方で、新たな取組を進めるための時間を確保する難しさも感じました。そのため、まずは子どもたちの日々の頑張りの成長を地域の方々に見てもらう機会を増やし、「応援したい」「一緒に成長を見守りたい」と思ってもらえる関係づくりが大切であると学びました。
- 学校行事を地域の方にも向けて発信していくことで、地域の協力を得られるのではないかとこの取組について、ぜひ本校でも取り入れていきたいなと感じました。

○CS アドバイザー相談会

- 市の現状の課題について、良きアドバイスをいただくことができました。アドバイザーとも個人的につながり、今後の研修会への協力をお願いすることができました。
- アドバイザーだけでなく他市町の状況も聞くことができた貴重な機会になりました。

事例紹介およびパネルディスカッション



講演

